

## 2016年度(第2回)

## 日本セラミックス協会フェロー表彰

2010年の公益社団法人への移行後、本会は中期経営計画を策定し、その中で「表彰制度の在り方の見直し」を掲げ、表彰制度検討委員会を設置して検討を進めて参りました。その結果、協会創立125周年である昨年からは、新たに「日本セラミックス協会フェロー表彰」制度を導入しております。

本フェロー表彰は、本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた本会個人会員を本会として称え、日本セラミックス協会フェロー(英語名称: CerSJ Fellow)の称号を授与することで、本会を代表するに相応しい会員としての活動を続けていただくとともに、本表彰により会員の本会活動に対する参加意欲の増大を促し、セラミックス分野の更なる発展を図ることを目的としています。

フェロー表彰規程ではフェロー候補者の推薦はフェロー5名の推薦を必要とすることになってはいますが、推薦有資格者のフェローが一定の人数に達するまでの暫定処置として、フェロー表彰候補者の推薦方法は、事務局で作成した候補者リストによることがフェロー表彰規程付則で定められております。フェロー表彰候補者選考委員会にて候補者リストより慎重な審議を行い、受賞候補者として次の28名の方が理事会に推薦され、2017年1月18日の理事会で最終的に受賞者として決定いたしました。ここに各受賞者のフェロー表彰推薦理由を紹介します。

なお、表彰式は、6月2日(金)東京(霞が関ビル内 東海大学校友会館)において開催の第92回定時総会後に行われます。

## 受賞者一覧

(28名 氏名五十音順、所属は受賞時点のもの)

植松 敬三	長岡技術科学大学	瀬川 浩代	物質・材料研究機構
右京 良雄	京都大学	田中 英彦	物質・材料研究機構
大司 達樹	産業技術総合研究所	渡村 信治	産業技術総合研究所
大西 宏司	(株)ニッカトー	中谷 利雄	元・第一稀元素化学工業(株)
尾坂 明義	岡山大学	野村 武史	昭栄化学工業(株)
加賀田 博司	京都大学	藤原 忍	慶應義塾大学
加藤 誠二	ヤマカ陶料(株)	北條 純一	九州大学
岸 弘志	太陽誘電(株)	細野 秀雄	東京工業大学
熊田 伸弘	山梨大学	堀田 幹則	産業技術総合研究所
桑原 誠	東京大学、九州大学	本間 剛	長岡技術科学大学
幸塚 広光	関西大学	町田 憲一	大阪大学
小松 高行	長岡技術科学大学	松尾 陽太郎	東京工業大学
近藤 敏和	元・日本板硝子(株)	松田 厚範	豊橋技術科学大学
坂井 悦郎	東京工業大学	水谷 尚美	元・日本ガイシ(株)

2016年度フェロー候補者選考委員会 委員長：牧島亮男、委員：安田榮一、新原皓一、河本邦仁、平尾一之、吉川信一

※本号394ページに2017年度フェロー候補者推薦募集要項を掲載しております。

Recipients of The 2nd CerSJ Fellow Awards



うえまつ けいぞう  
植松 敬三氏

植松敬三氏はセラミックスにおける最重要課題の一つであるプロセス-構造-特性関係にたいして、独自開発の強力な構造評価法を駆使することにより明快な解答を与え、産業に貢献するとともに、製造科学の構築を推進している。本会では基礎科学部会長、協会誌および学術論文誌の編集委員長を務めている。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会

フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和44年東京工業大学理工学部応用化学科卒業、同51年MIT大学院材料工学専攻博士課程修了、Ph.D. 同年東京工業大学工学部助手、同60年長岡技術科学大学助教授、平成3年同大学教授、同24年定年退職。



うえき よしお  
右京 良雄氏

右京良雄氏は窒化ケイ素系セラミックスを中心とする高強度セラミックス、セリアージルコニア系自動車用触媒の開発を通して基礎現象の解析を進めるとともに実用化にも繋がる研究を行った。さらに、セラミックス系蓄電池用材料について学術的な検討を進めるとともに実電池への応用についても貢献してきた。また、協会誌および論文誌編集委員などを通して協会活動にも貢献してきている。

以上、同氏は本会における継続的な活動を

通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和56年9月東京工業大学大学院博士課程修了、同57年ニューサウスウェールズ大学研究員、同59年(株)豊田中央研究所入社、平成25年4月京都大学産官学連携本部教授、現在に至る。



おさき たつき  
大司 達樹氏

大司達樹氏は、セラミックスにおける、粒子、粒子、気孔、欠陥、表面層等の微細構造因子の、強度、靱性、耐久性、耐熱性、耐食性などの機械的特性等に及ぼす影響を調べ、その特性発現機構を明らかにするとともに、微細構造因子の系統的な制御による、特性の飛躍的な向上や新機能の発現への指針を明らかにした。また、本会においては、理事、部会長等の役割を多く努め、その発展に尽力した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を

通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和58年名古屋工業大学大学院修士課程(機械工学)修了、同年工業技術院名古屋工業技術試験所入所、平成2年工学博士、産業技術総合研究所総括研究員、上席研究員、首席研究員等を経て同29年フェロー。



おさき ひろし  
大西 宏司氏

大西宏司氏は長年アルミナ、ジルコニア、ムライト、窒化ケイ素等の構造セラミックス材料の研究およびプロセス開発に従事し、製品開発とその事業化で成果を上げた。特に高耐摩耗性ジルコニアメディアの開発では、平成9年度本会技術賞を授与され、電子部品産業をはじめとする先端材料の発展に大きく貢献した。本会においては関西支部の活動に積極的に参画し、平成22年度協会活動有効賞を授与された。また、セラミックス大学の講師

も務め、セラミックスの啓発活動に貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和56年3月京都工芸繊維大学卒業、工学博士。同56年4月日本化学陶業(株)(現(株)ニッカトー)入社、平成22年同社取締役研究開発部長、同28年常務取締役生産本部長。



おさか あきよし  
尾坂 明義氏

尾坂明義氏は、各種酸化物系ガラスの構成や網目構造の化学、生体適合性に優れる無機-有機ハイブリッドやセラミック微粒子の合成、金属や高分子材料の生体適合性化の推進等、セラミックス材料の基礎と応用の発展に顕著な業績を挙げた。また、本会の基礎科学部会長、生体関連材料部会長、中国四国支部長等を歴任し、協会活動に多大な貢献をした。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業

績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和45年岡山大学工学部卒業、同年4月京都大学工学研究科修士修了、同49年博士課程中退、同年4月岡山大学工学部助手、UCLA客員、同61年岡山大学助教授、平成6年同大学教授、同25年定年退職。同大学特命教授、京都大学工学博士。



か が た ひろし  
加賀田 博司氏

加賀田博司氏は、パナソニック(株)にて、誘電体セラミックスの研究開発に従事し、特にBi系の低温焼結マイクロ波誘電体セラミックスを移動体通信用の積層フィルタ用材料として実用化した。本業績により、本会技術賞を受賞した。また、協会活動では、理事、関西支部長、電子材料部会役員、アドバイザリーボードなどを歴任し、特に関西支部長として、他支部との交流を先導するなど支部の活性化に貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和61年京都大学大学院工学研究科修士課程修了、松下電器産業(現パナソニック)(株)入社、平成17年博士(エネルギー科学、京都大学)、同28年パナソニック退職、同年京都大学リサーチアドミニストレーター。

かとう せいじ  
加藤 誠二氏

陶磁器原料の供給不安と品質の低下が深刻な状況となる中、加藤誠二氏はヤマカ陶料の経営者として、長年にわたり日本各地の陶磁器製造業者に安定した坯土、釉薬の供給に尽力してきた。また食器のリサイクルを目指す(一社)グリーンライフ21の代表理事として陶磁器産業の新たな展開を推し進めている。最近ではアルミナを主体とするスプレードライヤー顆粒の生産にも進出し、美濃地方のファインセラミック産業育成にも貢献している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和52年名古屋大学文学部卒業。同年(株)たち吉入社。同56年ヤマカ陶料(株)入社。平成19年同社代表取締役副社長。同18年グリーンライフ21代表理事。同20年陶磁器部会 部会長。同27年岐阜県窯業原料協同組合副理事長。

きし ひろし  
岸 弘志氏

岸弘志氏は、太陽誘電(株)に入社以来、セラミックス材料開発を推進してきた。特に、希土類酸化物を添加したBaTiO<sub>3</sub>系耐還元性誘電体材料開発により、Ni電極積層セラミックコンデンサの飛躍的な小型・高容量化を実現し、同事業の大幅な拡大に貢献した。同材料の信頼性改善メカニズムに関する研究等、国内外の学会活動の成果も高く評価されている。また、本会活動にも積極的に参画し、理事、協会誌編集委員会委員長を務める等、本会の

運営と発展にも寄与している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和55年3月東京理科大学大学院理工学研究科物理学専攻修士課程修了。同年3月太陽誘電(株)入社。現在、同社執行役員・開発研究所所長。平成14年3月名古屋工業大学工学博士。

くまだ のぶひろ  
熊田 伸弘氏

熊田伸弘氏は水熱反応やソフト化学的反応を用いて新しい無機化合物を数多く合成し、その結晶構造および特性を明らかにすることで固体化学の発展に寄与した。また、本会においては教育委員長、総務理事および基礎科学部会会長を通して、その活動に貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和56年3月東北大学大学院工学研究科金属材料工学専攻博士前期課程修了。同年4月山梨大学工学部助手。平成3年10月博士(工学)取得。同8年7月同大学助教授。同14年12月同大学教授。現在に至る。

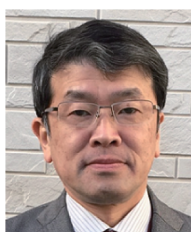
くわばら まこと  
桑原 誠氏

桑原誠氏は、電子セラミックスに関する研究を長年行っており、巨大なPTCR効果を示す多孔質チタン酸バリウムセラミックスの作製(市村賞貢献賞、本会学術賞)、単一粒界素子の作製とPTCR発現機構の解明、金属アルコキシド系高濃度ゾルーゲル法の開発、ナノ結晶マイクロパターン作製等で多くの成果を上げ、ナノクリスタルセラミックス研究の推進に貢献している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を

通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

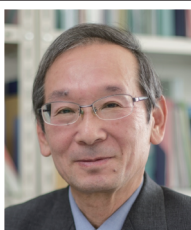
**略歴** 昭和43年3月九州工業大学工学部卒業。同48年3月東京大学工学系研究科博士課程修了。同年4月九州工業大学講師。助教授を経て、同62年教授。平成8年東京大学教授。同16年九州大学教授。同21年退職。東京大学、九州大学名誉教授。

こうづか ひろみつ  
幸塚 広光氏

幸塚広光氏は永年にわたってゾルーゲル法によるセラミック、ガラス、有機・無機ハイブリッド材料の合成に関する研究に携わってきた。ゾルーゲル法による薄膜作製について独創的な研究を展開し、薄膜内部応力発生機構の解明や薄膜化技術の提案はとくに世界的に高く評価されている。近年ではプラスチック表面にセラミック薄膜を作製する技術を提案し、新しい展開が期待されている。本会では学術論文誌編集委員、行事企画委員、基礎科学部会役員、関西支部副

支部長を務めてきた。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和59年京都大学大学院工学研究科修士課程修了。同60年同大学化学研究所助手。同大学助教授を経て平成10年関西大学工学部助教授。同14年同大学教授。学部改組により同19年より同大学化学生命工学部教授、工学博士。

こまつ たかゆき  
小松 高行氏

小松高行氏は、さまざまな新規機能性結晶化ガラス(高温超伝導/二次光非線形性など)の創成、レーザーによる単結晶パターンニング、ガラスの電子分極状態の研究で多くの先駆的な成果を上げた。また、協会誌編集委員会委員長、ガラス部会長等理事を務め、協会活動においても多大な貢献をしている。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会

フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和55年京都大学大学院工学研究科博士後期課程満期退学。同55年レンスレー工科大学博士研究員。長岡技術科学大学工学部助教授を経て、平成7年同大学教授。同27年同大学副学長(工学部長、工学研究科長)。



こんどう としかず  
近藤 敏和氏

近藤敏和氏は日本板硝子(株)において板ガラスの生産技術や各種ガラス材料の開発に携わり、ガラス製磁気ディスク基板、高強度ガラス繊維や高機能自動車用ガラスの開発とその事業化に貢献した。本会ではガラス部会長、国際ガラス会議(ICG)委員として活動し、平成16年9月京都でのICG開催時、その企画、運営に尽力した。同16年度から3年間、副会長として運営に貢献し、同26年には本会功労賞を受賞した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和46年3月京都大学大学院修士課程修了。同年4月日本板硝子(株)入社。平成8年6月同社技術研究所長、同14年6月同社取締役、同18年6月同社取締役常務執行役員、同19年6月同社上席執行役員、同22年6月退任。

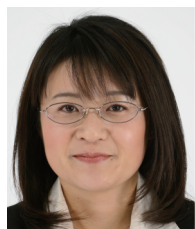


さかい えつお  
坂井 悦郎氏

坂井悦郎氏は低炭素化社会資本整備や持続可能な社会構築のための各種セメント系材料の開発や多機能な急硬セメントや膨張セメントなどの作用機構の解明をし、産業界へ大きく貢献した。成果の一つであるNEDOの支援により実施した研究成果は平成27年度の地球温暖化防止活動環境大臣表彰(技術開発・製品化学部門)を受賞している。また同氏は本会セメント部会長や理事を歴任し、協会活動にも貢献してきた。以上、同氏は本会における

継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和54年3月東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。同年同大学工学部助手、同57年電気化学工業(株)(現デンカ(株))、平成6年東京工業大学工学部助教授、同20年同大学院理工学研究科教授、同28年同大学物質理工学院教授、同29年同大学名誉教授、特任教授。



せがわ ひろよ  
瀬川 浩代氏

瀬川浩代氏はガラスを中心とした非晶質材料の合成とその機能化を進めてきた。近年では、蛍光体を分散するためのガラス組成の探索や、電気伝導性ガラスの作製などガラスに関連する研究を進めている。また、ゾルーゲル法を用いたバルク状ガラス体や光感応性材料の作製により、光機能性材料の開発を行った。また、行事企画委員会において主査を務め、年会の成功に貢献した。論文誌編集委員会、男女共同参画委員会においても貢献

を行っている。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 平成12年東京工業大学大学院博士課程修了。同年同大学助手、同16年東京工業大学助教、同21年物質・材料研究機構、同23年東京理科大学大学院連携准教授、同27年東京工業大学大学院特任教授を併任。



たなか ひでひこ  
田中 英彦氏

田中英彦氏は、セラミックス構造材料の開発に携わった。国の「次世代産業基盤技術開発制度ファインセラミックス研究開発」「産業用CGT実用技術開発」に参画し、同時に、高純度SiC材料の開発と産業化に成功してセラミックス産業に貢献した。一方、新規な焼結と粒成長理論を構築し、固体の物質移動の自由エネルギー理論に発展させ、従来にない基礎的研究領域を拓いた。本会では編集委員・運営企画委員等と、エンジニアリングセラミッ

クス部会長を務め、大いに貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和52年東京工業大学大学院無機材料工学専攻博士課程終了。同年科学技術庁無機材料研究所(現物質・材料研究機構)、同59年マックスプランク研究所粉末冶金研究所客員研究員、平成20年同機構退職・再雇用。



わたら しんじ  
渡村 信治氏

渡村信治氏は、陶磁器原料の合成と調湿材料開発の研究で本会学術賞を受賞した。また、人工粘土研究組合や調湿材料の官民連帯共同研究に参画しセラミック産業に貢献し、さらに、本会では協会誌編集委員、東海支部幹事、代議員、原料部会幹事、原料部会副部会長、資源・環境関連材料部会会長、理事などを歴任した。

績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和54年3月東北大学大学院理学研究科博士課程2年中退(昭和60年東北大学理学博士)。同年4月通商産業省工業技術院名古屋工業技術試験所(後の国立研究開発法人産業技術総合研究所中部センター)に入所、現在に至る。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業



なかに としお  
中谷 利雄氏

中谷利雄氏は、永年ジルコニウムや希土類の研究開発や物性評価に携わり、共沈法を進展させた機能材や安定化ジルコニア等の製品開発と事業化に結実させている。特にセラミックスの知見に基づいたセリア-ジルコニア系の自動車排ガス浄化触媒の原料は広く海外にも普及し、地球環境の維持に大きく寄与している。協会活動では、関西支部長を務め(2006~2008)支部発展を牽引した。さらに本会技術賞を授与され(1997)セラミックス産業の

発展に大きく貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和48年立命館大学理工学部卒業。同年第一稀元素化学工業(株)入社。平成16年京都工芸繊維大学大学院博士課程修了。同17年同社常務取締役就任、同24年同社相談役就任、同26年退職。



のむら たけし  
野村 武史氏

野村武史氏は昭和55年から平成25年までTDK(株)に勤務し、噴霧焙焼法による高性能MnZnフェライト、積層インダクタ用低温焼成NiCuZnフェライト、各種長寿命Ni電極積層セラミックコンデンサ等を開発し、電子セラミックスの材料技術に大きく貢献した。本会においても、関東支部長、電子材料部会長を歴任し、本会の運営と発展にも大きく貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を

通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和55年慶應義塾大学工学博士。平成14年TDK(株)取締役常務執行役員、同27年昭栄化学工業(株)取締役、千葉大学、横浜国立大学、山形大学、慶應義塾大学、東北大学、秋田大学等で客員教授、非常勤講師歴任。



ふじはら しんのぶ  
藤原 忍氏

藤原忍氏は、フッ化物ゾル-ゲルプロセスの開拓、蛍光体の表面制御による新機能の創製、水酸化物前駆体を用いた酸化亜鉛系光起電力材料の開発など、電子・光・エネルギー機能性セラミックスのプロセッシングと構造制御に関する研究にて多くの学術的成果を上げ、本会の進歩賞および学術賞を受賞した。協会活動においては、行事企画委員、男女共同参画委員、電子材料部会幹事、関東支部常任幹事などを務めるとともに、会員サービス

の向上に関わる取り組みを長年行ってきた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 平成2年京都大学工学部工業化学科卒業、同7年同大学院工学研究科博士後期課程修了、博士(工学)。同年慶應義塾大学理工学部助手、専任講師、助教授、准教授を経て、同24年同大学教授、現在に至る。



ほうじょう じゆんいち  
北條 純一氏

北條純一氏は、セラミックス粒子の合成と機能開発について研究してきた。当初の気相法による窒化ケイ素、炭化ケイ素等の微粒子合成と焼結体組織制御は、ナノ粒子研究の先駆けとなるものである。また、溶液法による酸化チタン、メソポーラスシリカの合成など、光触媒等の環境材料開発を推進した。その根幹にあるのは、原子・分子からの化学的合成であり、セラミックスのケミカルデザイン概念を定着させた。本会では、基礎科学部会長、協会誌編集委員長、

副会長等を歴任し、本会の運営と発展に大きく貢献した。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和48年九州大学大学院工学研究科修士課程修了(同55年工学博士)、同48年同工学部助手、同55年講師、同56年助教授、同58~60年カナダ国立研究所、平成6年同大学教授、同25年定年退官、名誉教授。



ほその ひでお  
細野 秀雄氏

細野秀雄氏は、電子機能をもつ無機固体物質の開拓研究で、世界をリードする成果を上げている。その代表例は、不可能といわれていた鉄系高温超電導体の発見、IGZOに代表される透明酸化半導体の開拓、そしてセメント鉱物C12A7の導電体化に端を発するエレクトライドの物質科学と応用(電極材料とアンモニア合成触媒)の創始である。これらは、物質科学に新領域を拓いただけでなく、産業応用に繋がっていることが特徴である。また、論文誌編集委

員長や学術会議との連携担当理事として本会に貢献した。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和57年都立大学大学院博士課程修了。名工大、分子研を経て平成11年東京工業大学教授、日本学術会議会員、日本国際賞、恩賜賞・学士院賞、日本セラミックス大賞、米国物理学会賞、トムソン・ロイター引用栄誉賞など受賞。



ほった みきのり  
堀田 幹則氏

堀田幹則氏は、非酸化セラミックスの微細組織制御により高機能化を達成、また大型部材向けのセラミックス接合技術を開発し、平成23年に本会進歩賞、同26年に国際交流奨励賞井関賞を授与されている。また、エンジニアリングセラミックス部会幹事、行事企画委員、協会誌編集委員、出版委員等を務め、平成26年度論文誌査読貢献賞を授与される等、協会活動にも広く貢献している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を

通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 平成15年横浜国立大学大学院博士課程修了、博士(工学)。同年日本学術振興会特別研究員PD(九州大学)、同18年東北大学金属材料研究所助教、同21年大阪大学接合科学研究所特任研究員、同22年産業技術総合研究所入所。



ほんま つよし  
本間 剛氏

本間剛氏はガラス材料への異性結晶の空間選択的形成と配向制御に関する業績、リチウムおよびナトリウムイオン二次電池用活物質・固体電解質ガラスセラミックスの開発に貢献し、本会進歩賞、学術論文誌優秀論文賞、倉田賞、ICG Gottardi賞を受賞した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 平成16年長岡技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程修了。同16年三菱電機(株)先端技術総合研究所研究員、同19年長岡技術科学大学物質・材料系助教を経て、同26年同大学准教授。



まちだ けんいち  
町田 憲一氏

町田憲一氏は、希土類関連材料の合成と物性評価に関する研究を推し進め、特にNd-Fe-B系焼結磁石の粒界面に、Dy、Tb等の高保磁力成分を選択的に微量導入することで、高い磁化と保磁力とを兼ね備えた高性能永久磁石となる製造法を提唱した。同法は現在、自動車向け等の高温仕様磁石向け需要のおよそ半数を賄うに至っている。また同氏は、関西支部や特定領域研究等の運営でも本会の発展にも大いに寄与した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和57年3月大阪大学大学院工学研究科博士課程修了。同年4月北海道大学触媒研究所助手、同大学工学部助教授、平成2年5月大阪大学工学部助教授、同大学先端科学技術共同研究センター教授等を経て、同23年4月より同大学院工学研究科教授。



まつお ようたろう  
松尾 陽太郎氏

松尾陽太郎氏は、多軸応力状態にあるセラミック部材の強度信頼性を確保することができる新規理論を開発し、非破壊検査理論、絶縁破壊理論を提唱するなど、セラミックスの破壊統計学発展に寄与してきた。学協会活動では、本会高温構造材料部会長、学振124委員会委員長、耐火物技術協会副会長、本会教育委員長、工業標準調査会窯業技術専門委員会委員長等を務め、学協会の発展に寄与した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を

通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和46年東京工業大学大学院生産機械工学専攻博士課程単位取得退学。同年同大学工学部生産機械工学科助手、同59年同大学工学部無機材料工学科助教授、平成7年同大学教授、同20年名誉教授、同28年まで特任教授、日本機械学会フェロー。



まつだ あつひろ  
松田 厚範氏

松田厚範氏は、ガラスやセラミックスをベースとするナノ複合系材料の創製と機能設計において、先駆的な研究を展開し、顕著な成果を上げている。その応用分野は、イオニクス、フォトニクス、エレクトロニクスなど非常に広く、セラミックス科学および産業分野の発展に寄与している。これまでに、東海支部幹事、基礎科学部会役員を務めるなど協会活動に貢献している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を

通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和62年大阪府立大学工学研究科応用化学専攻修了、同年日本板硝子(株)入社、平成9年大阪府立大学工学部助手、同12年同大学工学研究科講師、同14年豊橋技術科学大学助教授、同18年同大学教授。



みずたに たかよし  
水谷 尚美氏

水谷尚美氏は、昭和42年日本ガイシ(株)に入社、製品開発、事業化プロジェクトの中心的推進者として活躍し、当時主流であったペレット型に替わる自動車排ガス浄化用触媒担体(ハニカムセラミックス)や半導体製造装置用として世界初のセラミックヒーターなど、数々の新規セラミックス製品の事業化を実現させた。また、本会の東海支部長、副会長などを歴任し、本会の運営と発展にも大きく貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通

じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

**略歴** 昭和42年名古屋工業大学工業化学科卒業。同年日本ガイシ(株)入社、米国・欧州駐在を経て、平成5年同社セラミックス事業部長、平成15年同社代表取締役副社長・研究開発本部長、平成20年名古屋工業大学理事、現在、同大学研究協力会会長。